

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
介護保険実務論 Care Insurance Business		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(介護保険実務士ユニット必修)	介護保険実務士取得希望者必修 (社会福祉・介護福祉フィールド 除く)
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
介護保険請求実務				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
介護保険請求実務				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大熊 信成	福祉棟3F	火・水・木・金の9時から16時(授業時 間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について理解し、制度の発展過程についても言及する。介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解するとともに終末期ケアの在り方や相談援助活動において必要となる介護保険制度や福祉・介護に係る他の法制度についても理解を深める。				
授業の目標				
①高齢者に対する支援と介護保険制度の基礎的な知識を高めることができるようにする。 ②介護保険事務士取得試験(学科試験)に合格することができるようにする。 ③高齢者の生活の実際とその生活環境を具体的に理解し、説明することができるようにする。 ④高齢者の生活支援の必要性を具体的に理解し、説明することができるようにする。				
授業の方法				
講義形式の授業であるが必要に応じてグループ討議なども行う。資格取得講座であるため必ず出席のこと。				
学習の成果(学習成果)				
高齢者に対する支援と介護保険制度の基礎的な知識を高め、最終的には介護保険事務士取得試験に無事合格できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(授業の進め方、評価) 高齢者福祉の概要について			
第2回目	認知症ケアの実際について			
第3回目	高齢者虐待と虐待予防の取り組みについて			
第4回目	老人福祉法と関連法規について			
第5回目	高齢者に対する医療制度について			
第6回目	死と終末期ケア レポート「高齢者の尊厳について」※提出は第7回目の授業日			

第7回目	介護の概念と介護予防について	
第8回目	介護保険制度のしくみについて	
第9回目	介護保険制度の運営 レポート「介護保険制度の特徴と問題点」※提出は第10回目の授業日	
第10回目	地域包括支援センターと地域について	
第11回目	高齢者福祉制度の発展過程について	
第12回目	高齢者をとりまく地域と環境について	
第13回目	高齢者の心身の特性と支援・少子高齢社会の現状と動向・課題について	
第14回目	高齢者の生活実態と福祉・介護ニーズについて① (試験)	
第15回目	高齢者の生活実態と福祉・介護ニーズについて② 授業のまとめ	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。これらを総合的に判断する。
レポート	20%	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。
調査報告書		
小テスト		
試験	60%	論述、選択記述式の試験を行い、評価する。論述は根拠(エビデンス)に基づき自分の言葉で述べられていること。
発表内容(態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
『介護保険事務士養成テキスト』学科編 財団法人老齡健康科学研究財団編集、その他資料を適宜配布する。		
履修上の留意点・ルール		
「介護保険事務士」資格試験受験のための必須科目である。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。		